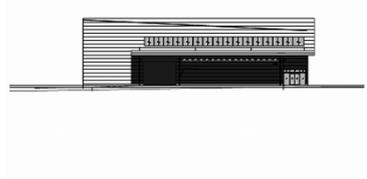
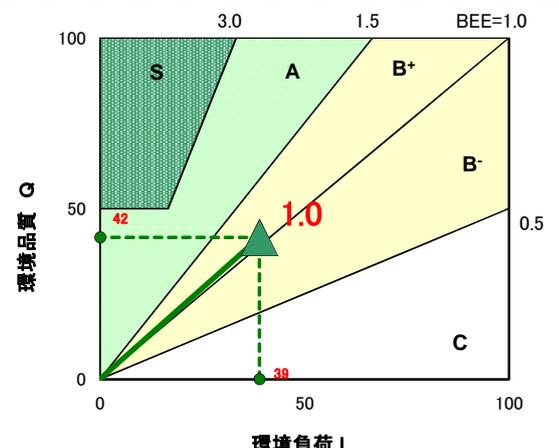


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	フジテノ株式会社 熊本工場	階数	地上2F		
建設地	熊本県菊池郡大津町杉水字水迫	構造	S造		
用途地域	指定なし	平均居住人員	75 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2017年1月5日		
敷地面積	7,306 m ²	作成者			
建築面積	2,300 m ²	確認日	2017年1月5日		
延床面積	2,848 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)			
		BEE = 1.0	
		$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$	
ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)		排出率	
		88%	
環境効率評価基準		ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準	
ランク	ランク表示	評価	判定値
			BEE値
			Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満
C	★	劣る	0.5未満
			判定値(排出率)
			ランク表示
			30%以下
			30%超60%以下
			60%超80%以下
			80%超100%以下
			100%超

2 熊本県重点評価結果

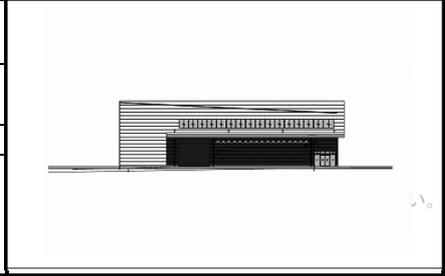
■ 重点事項総合評価		評価点	
		80	
	評価点	熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	82.9	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	89.2	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フジテロ株式会社 熊本工場	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池郡大津町杉水字水迫	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	75 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2017年1月5日
敷地面積	7,306 m ²	作成者	
建築面積	2,300 m ²	確認日	2017年1月5日
延床面積	2,848 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 80**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 82.9**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 62.5**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 82.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 89.2**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・周辺環境に配慮してシンプルな外観とし、前面道路に面した部分にさまざまな種類の植栽を計画している。
- ・全体で1142.9㎡の緑化面積を確保している。
- ・照明はLED照明で計画している。
- ・外構路盤には再生砕石を使用している。

Q1 室内環境

- ・F☆☆☆☆建材を使用。
- ・事務所などの執務室は自然採光を取入れることで室内環境に配慮した。

Q2 サービス性能

- ・階高にゆとりをもたせ、建物の自由度を高めた。
- ・外壁材は比較的耐用年数が高いガルバリウム鋼板を採用した。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

- ・外壁、屋根材に断熱材充填型を採用し、建物の断熱性能を高めた。

LR2 資源・マテリアル

- ・路盤材に再生砕石を採用した。

LR3 敷地外環境

- ・適切な数の駐車駐輪スペースを計画した。

その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境								2.9
1 音環境		2.2	0.15					2.2
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		1.0	0.40					
1 開口部遮音性能		1.0	0.60					
2 界壁遮音性能		1.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		3.0	0.20					
2 温熱環境		2.5	0.35					2.5
2.1 室温制御		3.2	0.50					
1 室温	【事務所】夏季:24°C±3、冬季:24°C±3	5.0	0.38					
2 外皮性能	【事務所】窓SC:0.5U:2.67、外壁U:0.73	4.0	0.25					
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38					
2.2 湿度制御		3.0	0.20					
2.3 空調方式		1.0	0.30					
3 光・視環境		3.3	0.25					3.3
3.1 屋光利用		4.2	0.30					
1 屋光率	【事務所】2階事務 4.3%	5.0	0.60					
2 方位別開口								
3 屋光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		3.0	0.30					
1 屋光制御		3.0	1.00					
3.3 照度		3.0	0.15					
3.4 照明制御		3.0	0.25					
4 空気質環境		3.7	0.25					3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	【事務所・工場】全てF☆☆☆☆採用	4.0	1.00					
2 アスベスト対策								
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.33					
2 自然換気性能	【事務所】2階事務 0.068(1/15以上)	5.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33					
4.3 運用管理		4.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御	【事務所】建物全体が禁煙	5.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					3.0
1 機能性		2.3	0.40					2.3
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33					
3 バリアフリー計画		3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30					
1 広さ感・景観	【事務所】2階事務:天井高2.7m	4.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		2.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30					3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	【事務所・工場】ガルバリウム鋼板(25年)	4.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	【事務所・工場】給水管B、汚水排水管B	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	【事務所】階高:3.5m【工場】階高:5.3m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	【事務所】比率:0.187【工場】比率:0.092	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	【事務所・工場】構造部材・仕上材を痛めることなく更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	【事務所・工場】構造部材・仕上材を痛めることなく更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	【事務所・工場】バックアップスペース計画あり	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		【事務所・工場】高効率設備の採用	4.0	0.04	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.83 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.60	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)	【事務所・工場】LED照明、高効率設備の採用	4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	【事務所・工場】節水コマ・自動水栓・泡沫水栓、グリーン購入適合品	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、ビニル床シート	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	【事務所・工場】LGS下地	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		【事務所・工場】省エネ設備の導入	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	【事務所・工場】光害対策ガイドラインの項目の過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 **フジテノ株式会社 熊本工場**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.9	0.40	33.16
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.09			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.03			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				89.2	0.20	17.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数